

(新潟市社会教育委員会議) レポート様式

平成 30年 12月 18日

「そらいろ子ども食堂」の視察について

氏名 岡 昌子

- 1 訪問日 平成30年 12月16日(日) 15:00 ~ 20:00
- 2 会場 白新コミュニティハウス
- 3 対象 子どもを中心とした地域住民すべて
- 4 運営団体 新潟青陵大学、新潟県立大学の学生で組織された運営委員会
- 5 活動の概要

子どもの貧困問題、こ食問題を背景に子ども食堂を月1回開催することで、みんなと一緒に楽しく食事ができること、子どもにとって大人とのコミュニケーションを通して培う経験の蓄積、子どもを真ん中にした居場所として、こどもを地域で守り育てるという役割のもと、学生主体の運営委員会を立上げ「地域まるごと家族」をモットーに、地域の方々がふれあえる心地よい居場所作りとしての子ども食堂を実施。

6 活動にみえる「次世代育成」

運営母体となる20名の学生が運営委員として活動を創り上げている。自分たちの後輩や毎回参加のある学生ボランティアに、活動の意味、魅力を伝え実感してもらうことで、次期の運営委員につなげている。また、子ども食堂に集まってきた子どもたちが、楽しく食事をし、異世代の人々とのふれあいを経験することで、将来高校生、大学生になった時に地域活動の担い手になりうる。

代表者から、継続性が大事との説明であったが、まさに担い手の育成に関わっている。

7 今後に向けて

学生が全て運営をしていることで、学生ならではの自由な発想とエネルギッシュな活動は素晴らしいと思いました。代表の話では、運営委員の中でも調理係は、子どもとのふれあかも少なく、ほぼ一日中調理室での活動になっているとのこと。これから、ますます負担が大きくなる事が予想されます。活動を継続するためにも、これまで以上に地域の方から調理スタッフとしてボランティアに入って貰うことが必要になってくると思います。その場合、学生の想いや自主性を尊重しながら、活動に協力して頂くことが大切だと思います。